

サザンクロス



vol.12

KINAN HOSPITAL
OFFICIAL INFORMATION PAPER

September. 1. 2010

7:1 看護体制について

看護部長
中村 優子



2006年、診療報酬改定により、7:1看護の評価が導入されました。当院は2007年4月から7:1入院基本料の届出をしました。2008年からは「看護必要度」を測定する基準が定められ、私達はこの重症度・看護必要度基準項目に沿って、各病棟で毎日、患者さんの状態評価を行い、データ化し、情報の共有化・適正な人員の配置や業務の見直しに努めています。しかしこの評価項目では、高齢者の急性期に伴う不穏や危険行動の増加、認知障害によるADLや意思疎通の低下等で増え続ける看護量は、数値として現れてきません。このことは24時間対応の中で最も困難な現状でもあります。

一方、7:1看護体制は看護部にとって大きな効果をもたらしました。まず、看護方式として固定チームナーシングが導入でき、受け持ち看護師やチームメンバーの主体的な関わりにより、患者さんが必要とされる時に適切な看護、責任ある看護を提供できるようになりました。また、看護研修への参加や新人看護師の定着にも効果が認められます。

現在、当院は病床稼働率の低下により、病院経営から言えば適正な人員配置が求められますが、そのことも踏まえ、私達はこの「看護の質」を担保にして得られる診療報酬の中で、より患者ニーズに即した7:1看護を維持していく努力をしたいと考えています。同時にチーム医療の中で医師や他職種との協働や負担軽減など看護師の役割も見直していく必要もあると認識しております。これからも看護の実践活動にご理解いただけますよう宜しくお願い致します。



あたりまえ

病院長 山本忠生

調査会社IPSOSとロイターが、昨年11月から今年1月にかけて、インターネットを使い実施した世論調査では、日本の医療満足度は15%で、日米中など先進・新興22カ国中最低レベルであった。自国の医療制度に満足している人の割合が高いのはスウェーデン(75%)とカナダ(約70%)で、韓国、ロシアなどは30%以下であるという。スウェーデンやカナダの医療がどの程度かわからないし、調査方法も問題らしいが、ひどいといわれるイギリスでも満足度は50%で日本の満足度の低さが際立っている。日経メディカルの調査によれば現在の国民皆保険制度を守るべき、フリーアクセスは守るべきという意見は一般人と医師との間に賛否の差はないが、診療報酬の引き上げに関しては医師の94%は賛成であるのに対し58%の市民は反対であった。これは支払ったお金に値する医療が受けられていないという不満の表れであろう。

心筋梗塞などに対する血管内治療、消化管出血での内視鏡的治療、腹腔鏡による手術などの新しい技術や、抗がん剤をはじめとする新薬の開発、医療機器の発達などにより過去には救命できなかった病気も正確に診断し治療できるようになった。

柳田邦男の「ガン回廊の朝」では、ガンセンターが発足した1960年代、がんの撲滅に苦闘する医師たちの姿を、感動的に描いている。その後50年近く過ぎたが、習得すべき知識や技術は高度化、複雑化し、当時の技術は“あたりまえ”のものになっている。医学の進歩で“あたりまえ”の範囲が広がるのは喜ばしいことであるが、不足するマンパワーや医療技術の習得に要する時間、新しい技術の開発時に繰り返されたであろう献身的な努力は忘れられがちである。

家族の都合に合わせて日曜日や夕刻の時間外に病状説明をする、はじめは“ありがたい”と感謝されるが、何度もやっているといつの間にか時間外も“あたりまえ”に思えてしまう。病気になってはじめて健康のありがたさに気がつくように、“あたりまえ”のレベルは個人によっても、社会によっても、時期によっても異なる。日本の医療満足度が低いのは実力以上に期待されているのが要因であろう。

病院には情熱にあふれ、いやな仕事も笑顔でやってのけるスタッフがいてチームワークの要になっている。彼らが心を込めてやっている仕事を“あたりまえ”と切って捨て、感謝せずに日々の努力と情熱を風化させてはならない。お互いが遠慮し合ってこそ社会で“あたりまえ”にはなっているが、本当は“ありがたい”と感謝すべきことはたくさんある。国民の医療に対する期待に応え“あたりまえ”をひるげるためにも身の周りを見直して、同僚にも、家族にも、“ありがたい”と感謝できる人間になりたい。

ピンクリボン運動

中央臨床検査部 石水 弘子

「ピンクリボン運動 in 和歌山 紀南支部」は、和歌山県南部の乳がん死亡者を少しでも減らしたいという私達の願いを実現するために、2010年1月に発足した団体です。私達は、「乳がんは早期発見すれば治りやすいがんであり、そのためには乳がん検診を受診することが大切である」ことを啓発するため、日夜取り組んでいます。

これまで私達は「ピンクリボン着用週間」キャンペーンを始め、様々な乳がん検診受診率向上のための取り組みを行ってきました。そして、2010年後半は、パネルディスカッション(9/25)と熊野本宮大社ピンクライトアップイベント(10/3)を中心に活動していきます。又、ブース出展やミニ講座の開催も行っていきたいと考えていますので、ご依頼がありましたらぜひご連絡下さい。



8月10日に学校説明会が開催されました。参加者は社会人5名、保護者2名を含む43名とたくさんの方々に参加していただきました。学校に対してどんな印象を持ったかというアンケートを行ったところ、看護に興味を湧いた、学校施設や実習病院が充実していると思ったという意見がありました。たくさんのご参加ありがとうございました。

看護学校だより



6月12日(土)に看護学生体験が開催されました。参加者は41名であり、看護学生の2年生が中心となり、地域の高校生を対象にした集団指導を企画運営し、協調性を養い指導力を身につけることを目的とした看護学生体験を行いました。モデル人形を使用した血液採取の実施を行い、その後、高校生と看護学生



との交流の場をもちました。高校生にとって、看護技術を体験し、看護の仕事を知ることによって進路決定の参考にしていただけたらと思います。

地域医療連携だより

嘘のような本当の話



山西内科胃腸科眼科医院

山西 康仁

日頃は、救急患者さんの受け入れに大変お世話になり誠に有り難う御座います。
今、思いっただけでも、肺梗塞、上腸間膜静脈閉塞症、破裂直前の胸部大動脈瘤、心筋梗塞、Guillain-Barre症候群など、多数の救急患者を受け入れていただき、お陰で、多くの命が救われました。普段、連携室の皆様や紀南病院の先生方にお礼を申し上げる機会がないのですが、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



さて、今年の日本肝臓学会総会は山形市で5月27日(木)、28日(金)に開催され、27日9時からの講演テーマに興味があったので、その時間までに会場に入るためにはどうするかが問題でした。結局、京都から山形行き夜行バス、アルカディア号で行くことになりました。運転手は2名、乗客は私を入れて10名。座席は3列シートで、バスの中央の右窓側にトイレがあり、私はその反対側、左の窓側に席を取りました。

うとうとしていると、賤ヶ岳サービスエリアに到着。トイレ、お土産、朝食の買い込み等の為、全員が降車。私はもたもたして最後になりました。パーマの効果がなくなりかけ、少し乱れた髪を肩まで伸ばし、めがねをかけ、いかり肩、少しO脚で太めの中年女性が降りる際、トイレの近くにある冷蔵庫から、何個かの紙パック入りお茶を取り出し、自分の袋の中に素早く入れ、冷蔵庫の扉をきちんと閉めないであわただしく降りてきました。

お茶のパックは1人1パックずつ飲んで下さいと運転手から説明があった物です。何か不思議な行動をする人だなと気になりながら私も降車。朝食用に菓子パン1個、缶コーヒー1本、水を1本購入。その女性はいくつかの商品を購入し支払い時に袋をいくつか下さいともらいました。ここを出発する頃は23時で、運転席と乗客席の間に遮光カーテンが引かれ、乗客席は消灯、トイレの案内板と非常灯のみの明かりとなりました。

しばらくして、がさがさする音で目覚めると、先ほどの女性が冷蔵庫からお茶パックを取り出し、袋に詰めていました。やはり、変な人だったのか。薄明かりで見るとその人の顔は引きつり、何とも不気味でした。詰め終わると後ろの座席に戻って行きました。私は、また、うとうとと眠ってしまいました。しばらくして、人の気配で目覚めると、また、その女性が来ており冷蔵庫からお茶パックを取り出し、袋に詰めていました。その後、もう一度同じ行動をとりました。注意しようかと思ったのですが、待て待て、寝ているうちに何をされるかわからないし、周囲の

人を起こし騒ぎになるかも。それに、この人の動機はなんだろう、飲食店の経営者？飲料水を販売している人？それとも、家族へのお土産？自宅で飲むため？理由はいろいろ考えられるが、恐らく生活が苦しいからなのかな？ 気の毒といえば気の毒だ。このまま見過ごそう。と決定。眠りにつきました。

目覚めると、外は明るく、乗客席と運転席を仕切っていたカーテンは取り払われていました。昨晚購入したパンと缶コーヒーを飲み朝食を終えた頃、6時51分に南陽市に到着。そこで降りたのは、例の女性でした。両手に数袋ずつ持てるだけもって、荷物を肩にかけて。そして、笑顔で運転手に何度もお礼を言ってバスを降り、地面に荷物を置いた後、更に、バスの前に行き笑顔で何度も手を振って去って行きました。運転手さんたちは、「楽しい人だね」等、山形弁で話し喜んでいました。

何という変身ぶり、昨夜の鬼気迫る雰囲気とは打って変わって、明るい、人の良いおばさんでした。



病院のまど

第26回市民健康講座のお知らせ

子宮頸がんは、子宮の入り口付近に出来るがんで、女性のがんの中で4番目に多いがんです。40歳を越える女性に多くみられますが、最近は20代や30代での発症も増加しています。最悪の場合生命にも重大な影響を及ぼす恐ろしい病気ですが、その原因やがんになる過程がほぼ解明されていますので、正しい知識を身につけることで予防することも可能です。

子宮頸がんを予防するため、この機会に一緒に勉強しませんか。

日 時 平成22年9月12日(日)
時 間 午後2:00~3:00
会 場 紀南病院 3階講堂
演 題 子宮頸がん
～検診とワクチンで予防を～
演 者 中川 康 (産婦人科部長)

クリニカルインディケータ

社会保険紀南病院が提供する医療の質を向上させるため、クリニカルインディケータを設定し評価する取り組みを始めました。

クリニカルインディケータとは、診療の内容の評価を反映するような指標、例えば死亡率とか再入院率といった指標のことです。この指標を基にして得られたデータを、分析・評価することで診療上の課題を見つけ改善につなげるために利用されます。

当院では、平成21年度7月から、主要診断群別、科別、5大がん診断群別に、退院30日後・40日後の再入院率、死亡率、緊急率、救急搬送率という5つの指標のデータをまとめています。このデータを分析評価して今後の医療の質向上に活かしていければと考えています。

第25回市民健康講座について

平成22年7月25日(日)に、「脂質異常症・もう一度生活習慣を考えてみよう」と題し、市民健康講座を開催しました。脂質異常症は、動脈硬化を進行させ、心筋梗塞、脳卒中の引き金となる恐ろしい病気ですが、食生活や運動習慣の見直しで予防が図られます。

生活習慣の改善のポイントについての赤木副院長の解説に、皆様ご納得されていました。

編集後記

残暑厳しい日々が続いています。夏バテになっていないでしょうか。最近、知人から疲労回復のために、“梅エキス”を毎日なめているとのことを聞きました。それで早速、私も試してみました。何となく効果もあるような、ないような…。しかし、“梅エキス”には、血液サラサラ効果、活力増進、殺菌効果、老化防止、疲労回復の効果があるようです。いつまで続くかわかりませんが、若さを保てるよう、体の中から健康でキレイになれるよう頑張ります。

〇記

基本理念

社会保険紀南病院

私たちは、患者さまに優しさをもって接し、皆様から信頼される医療を目指します。

紀南こころの医療センター

やさしさをもって、信頼と満足の得られる医療を行います。

社会保険紀南病院

〒646-8588 和歌山県田辺市新庄町 46-70

Tel 0739-22-5000 Fax 0739-26-0925

<http://www.kinan-hp.or.jp>